

九州運輸局メールマガジン 平成24年8月23日 第180号

～九州の明日を拓く運輸と観光～

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/>

目次

1 九州運輸局ホームページアップ情報（8月9日～8月22日掲載分）

- ・総合案内
- ・各種情報
- ・各種手続き
- ・分野別情報
- ・報道発表
- ・お知らせ

2 現場レポート

- ・潜入！未体験ゾーン 2012
～中学生が石油備蓄基地、外航客船、冷蔵倉庫を見学！～
- ・「めざせ！造船のプロフェッショナル」
～高校生を対象とした船上教室“船”アカデミー開催～

3 九州運輸局セミナー

1 九州運輸局ホームページアップ情報

（8月9日～8月22日掲載分）

----- 総合案内 -----

九州運輸局長より就任のご挨拶

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/gyoumu/aisatsu.html>

----- 各種情報 -----

《入札・契約情報》

企画競争に係る実施結果の公表（平成24年8月2日分まで）

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/nyusatsu/list.html#KIKAKU_KEKKA

企画競争実施公示（平成24年8月10日分 2件、8月20日分 1件）

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/nyusatsu/list2.html#KIKAKU_KOUJI

企画競争実施予定情報の公表

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/nyusatsu/pdf/koukyou/kikakukyousou_120817.pdf

物品・役務入札公示（平成24年8月22日分）

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/nyusatsu/list.html#BUPPIN_CHOTATSU

《行政処分状況》

一般貸切旅客自動車運送事業者に対する違反事項ごとの行政処分等の基準について（一部改正）

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/jigyousya/kijun/list.htm>

自動車整備事業者の法令違反に対する行政処分等の状況について

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/jigyousya/seibi/seibi.htm>

一般乗合旅客自動車運送事業者の行政処分状況（平成24年7月分）

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/jigyousya/noriai/noriai24.htm>

一般貸切旅客自動車運送事業者の行政処分状況（平成24年7月分）

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/jigyousya/kasikiri/pdf/kasikiri24_07_1.pdf

一般乗用旅客自動車運送事業者の行政処分状況（平成24年7月分）

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/jigyousya/jyouyou/pdf/jyouyou24_07_1.pdf

一般貨物自動車運送事業者（過積載を除く）の行政処分状況（平成24年7月分）

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/jigyousya/KAMOTU/pdf/kamotu24_07_1.pdf

一般貨物自動車運送事業者（過積載に限る）の行政処分状況（平成24年7月分）

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/jigyousya/KAMOTU/kasekisasi24.htm>

《九州のうんゆ》

九州のうんゆ（平成24年5月分）

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/kyushuunyu/body.htm>

《九州統計情報》

自動車保有車両数（平成24年7月分）

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/toukei/j_touroku/syaryousuu2407.pdf

新規登録自動車数（平成24年7月分）

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/toukei/j_touroku/shinkitouroku2407.pdf

燃料別等自動車保有台数（平成24年7月分）

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/toukei/j_touroku/nenryoubetsu2407.pdf

----- 各種手続き -----

《海技試験制度・合格者発表》

海技試験総合合格発表及び筆記試験の日程（平成24年10月分）

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/kaigisiken/body.htm>

----- 分野別情報 -----

《バス・タクシー・トラック》

タクシーの申請公示状況（８月１３日及び８月２１日付け）

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/gyoumu/ji_bu_ka/taxi/taxi_kouji20120821.pdf

バスの申請・処分状況（平成２４年７月分）

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/gyoumu/ji_bu_ka/bus/bus_syobun20120813.pdf

トラックの申請・処分状況（平成２４年７月分）

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/gyoumu/ji_bu_ka/truck/truck_syobun20120813.pdf

《観光》

「平清盛」瀬戸内連携推進会議

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/m_kankou.html

----- 報道発表 -----

高速ツアーバスに対する緊急対策実施状況の一斉点検の結果について

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/press/pdf/2012-0809-kansakan.pdf>

羽田国土交通大臣の九州新幹線建設工事 起工式・記念式典への出席について

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/press/pdf/2012-0816-keikakuka.pdf>

一般貨物自動車運送事業者に対する事業停止処分

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/press/pdf/2012-0817-jidoshakansakan.pdf>

----- お知らせ -----

九州地区における運輸安全マネジメントセミナーの開催について

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/osirase/file001_022/2012-0817-somuka.htm

平成２４年度 整備管理者選任前研修の開催について

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/osirase/files/2012-0817-hoan.pdf>

９月と１０月は「自動車点検整備推進運動強化月間」です。

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/osirase/file001_022/2012-0821-seibi.htm

２ 現場レポート

▼▼潜入！未体験ゾーン ２０１２▼▼

～中学生が石油備蓄基地、外航客船、冷蔵倉庫を見学！～

鹿児島運輸支局では、（社）九州海事広報協会と共同で８月７日（火）に海事施設見学会を開催し、鹿児島市立伊敷中学校の生徒など２５人が参加しました。

生徒達が最初に向かった施設は、石油備蓄基地です。ここは計７３５万KL、日本で使われる１０日分もの原油を貯蔵できる世界最大級の原油中継備蓄基地です。生徒達は施設の担当者の説明を真摯に聞いた後バスに乗り込み、写真を撮ったり

しながら原油タンクを見学しました。実際に設置されている実物大の配管に入ってみて、自分たちの背丈ほどある配管の大きさを体感したり、沖合に巨大タンカーが原油を満載してくる様子等も見学できました。

次に、港湾施設マリンポートかごしまにて、生徒達の元気の源、昼食の時間を楽しみました。食事後すぐに走り出す生徒、友達と記念写真を撮る生徒、おやつを忘れて悲鳴をあげる生徒など、それぞれが昼の時間を満喫しました。

その後、マリンポートに入港中の7万トン級の大型旅客船「レジェント・オブ・ザ・シーズ」の外国人船長との懇談が行われました。最初は恥ずかしがり、友達に押されるようにして質問していた生徒達も「日本の印象は？」「この船はいつ作られたの？」等次々に質問をしました。船長は「日本には数回寄港しているが、景観がすばらしい！」と笑顔で答えていました。船長との語らいの最後に生徒から航海の安全と参加者の思いを込めた額縁「夢」をプレゼントして、全員で写真撮影をしました。

なお、当日はKYT（鹿児島読売テレビ）の記者のヘインタビューに生徒は「この船に住みたい！」など元気に答えていました。

最後は、冷蔵倉庫の見学です。施設に着いた時の外の気温は34℃、そこから室温10℃の肌寒い荷さばき室に入室し、施設の担当者から冷蔵倉庫の意義についてなどの講義を受けました。生徒達は肌寒い中、一生懸命話を聞いていました。

体が寒さに慣れてきた頃、いよいよ冷蔵倉庫の探検です。声をあげながら、
- 25℃の世界に足を踏み込もうと入り口まで行き、その大寒を体いっぱい浴びて、歓声をあげていました。冷蔵倉庫から走り出た生徒達は、続いて次の実験を行いました。凍ったバナナで釘を打つという、知ってはいるけれども実際には行う機会が全くない実験です。生徒達はバナナが欠けるほど釘を打って楽しんでいました。

すべての見学会を終えて、帰りのバスに乗り込み、施設の職員に向かって手を振る生徒達はとても満足気な笑顔でした。

今回の見学会を通して、生徒達は一般的に体験できない施設等体験を行い、貴重な体験をすることができました。このことをきっかけに海事産業に興味を持ち、理解を深めてもらうことが出来たと感じています。

最後に、今回の海事施設見学会にご協力いただきました、鹿児島県冷蔵倉庫協会、株式会社マルハニチロ物流、JX 日鉱日石石油基地株式会社及び鹿児島商工会議所の皆様に深く感謝申し上げます。

当日の様子は下記の URL からご覧になれます。

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_180.pdf

【鹿児島運輸支局】

「めざせ！造船のプロフェッショナル」

～ 高校生を対象とした船上教室 “ 船 ” アカデミー開催 ～

海事振興部 船舶産業課では、造船・船用工業における「ものづくり」や海の魅力を若い世代に伝えるための独自の人材確保・育成事業に取り組んでいます。その一環として、6月28日、将来の造船マンをめざす高校生を対象に、国際航海の旅客フェリーを教材とした『船上教室 “ 船 ” アカデミー』を開催しました。

今回、“ 船 ” アカデミーの教室となったのは国際港下関のシンボルとして停泊する4代目「はまゆう」です。

107年前（1905年 明治38年）下関～釜山間に航路が開設されて関釜連絡船が就航。太平洋戦争による中断後、1970年（昭和45年）初代関釜フェリーが、新たな日韓友好のかけ橋として就航しました。関釜フェリーはまさに、下関の歴史とともに歩んできた船です。

一方、参加した高校生は、造船学を専門課程として学ぶ、山口県立下関中央工業高校3年生30名。造船学を専攻できる高校は、現在全国で3校となり造船業界にとっては貴重な人材です。

梅雨の晴れ間となった当日、船内での座学（船舶のメンテナンス、船舶検査、機器の役割など）から、船内実地講義（操舵室～救命甲板～車両甲板～機関室）と熱い授業が続きました。

まず座学では、本船の工務監督から、先日実施した中間検査の様子を中心とした授業がありました。冒頭、「最初に行う効力検査で、船が日頃どのように手入れされているかが分かります。船舶検査官はそこをよく見えています。大切なのは、日々のメンテナンスです。」と、船を運航する船社の心得が紹介され、続いて主機関やプロペラ軸の解放の様子や、部品に傷がないかを調べるカラーチェック、

マグナフラックス検査など、精密な検査の様子がスライドにて紹介されました。なかでも、毎年のドックにかかる費用の金額には驚きましたが、それだけ安全運航のために投資しているのだと、皆さん感心されたようでした。

座学の後の船内での実地講義では、船橋や機関室に場所を移して実船学習が行われました。船橋では航海機器を操作したり、無線機器の役割などの説明を真剣に聞いていましたが、意外にもチャート（海図）に学生達は興味を示していました。

また、機関室では、少々、怖そうな機関長が機関室内のブラックアウトを再現。「明かりがまばらならすぐに待避しなさい」と、イタリアで座礁した「コスタ・コンコルディア号」の船内の様子を例に船内電源の重要性について丁寧に講義され、先輩エンジニアの優しい心遣いが感じられました。

最後に行われた全体講評では、関釜フェリー(株)幹部から、「基礎学力はもちろん大事ですが、国際的な視野を持ち、一方で新しい発想を常に持つ造船マンに育って欲しい」と、学生達に熱いエールが送られました。

当日は、地元テレビ局も駆けつけ生徒にインタビュー。生徒は「知らない事ばかりですごいなと思います。造船マンになりたいと思います。」「将来はこういう船に携わる仕事に就きたいと思います。」と輝く笑顔で答えていました。

最後に、“船”アカデミー開催に快く御協力を頂きました関釜フェリー(株)様、ご多忙の中、短時間に関わらず丁寧な教材を準備、講義頂きました工務監督様と船長様をはじめ「はまゆう」クルーの皆様、そのほか、実施までにご援助頂きました関係者の皆様へ、心から感謝申し上げます。

近い将来、日本を代表する造船マンとして活躍する彼らの未来に、エールを送ります！

当日の様子は下記のURLからご覧になれます。

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_180_2.pdf

【海事振興部 船舶産業課】

3 九州運輸局セミナー

九州運輸局の各課から業務内容等を紹介するコーナーです。

今回は、自動車技術安全部 管理課です。

管理課では、九州管内の自動車の登録業務にかかる関連業務を総括しています。自動車の登録は、自動車に係る各種行政上の権利義務の明確化等のために必要な情報を記録・管理する『行政登録』の目的をっており、登録を受け、ナンバープレートを手体に取り付け、封印を受けなければ自動車の運行することはできません。

また、自動車の取引の安全を確保するため、自動車の所有権を公証する『民事登録』の目的もっており、詐欺、盗難等による不正登録が行われないよう、公正中立な立場で、厳正に審査しています。

最近の登録制度の取り組みについて紹介します。

【ご当地ナンバー制度】

ナンバープレートの地域名表示は、従来より当該自動車の使用の本拠地を管轄する運輸支局又は自動車検査登録事務所の名称や所在地を表示することとされています。それに加えて、平成18年10月より地域振興や観光振興等の観点から、新たな地域名表示を認めることとなりました。

導入要件として、経済圏など一定のまとまりのある広く認知された地域、登録自動車10万台以上等となっており、「仙台」「柏」「倉敷」「下関」など、19ナンバーが導入されています。2つの県（山梨・静岡）にまたがる「富士山」ナンバーもあります。

九州においては、奄美大島地域、別府市、天草地域、霧島市から要望がありましたが、登録車両数が基準を満たしていない等により実現には至っていません。「ナンバープレートのあり方に関する懇談会」（平成24年7月19日最終答申）において、地元の要望に応じた「ご当地ナンバー」を一定の制約を前提としつつ、拡充に前向きに対応することとなり、早ければ本年度中にも自治体から募集を始め、対象となる地域を決定し、平成26年度からの導入・交付を目指すこととなっています。

また、対象地域全部が離島である場合は10万台を満たさなくても申請可能としており、地域からの要請等を踏まえ判断していきたいと考えています。

【ナンバープレートの表記（希望ナンバー制度）】

ナンバーの分類番号の3桁化に伴い、4桁以下のアラビア数字を自分の好きな番号を選べる制度が、平成10年5月に創設されました。

特に人気の高い1, 7, 333, 777・・・など13通りの番号は抽選対

象となっています。

平成23年度の新規登録、他県からの管轄変更入り、番号変更によるナンバープレートの交付実績は、546,037件で、内、希望ナンバーが196,032件あり、選択率は35.9%となっています。

日本の三大都市の都市圏である首都圏・中京圏・近畿圏において、数年後には一部の希望ナンバーが底をつく状況となっていることから、「ナンバープレートのあり方に関する懇談会」において検討が行われ、現在3桁の数字で表示されている分類番号の下2桁にアルファベットを用いることとし、出来る限り早期に対応するとしています。

自動車のナンバープレートは、道路運送車両法の制定時を原点として、その後、特定の番号を取得したいというニーズの高まりによる「希望ナンバー制度」の導入、そしてご当地ナンバーの導入など、逐次その見直しを行い、社会のニーズに対応してきたところです。

自動車の登録業務を取り巻く環境は、所有権の公証、封印制度、OSS（注）の拡大など、大きく変革していこうとしています。こうした社会情勢を踏まえつつ、地域に根ざした登録業務を推進していきます。

（注）OSSとは、「自動車登録手続きの利便性向上の施策である自動車保有関係手続きのワンストップサービス」のこと。

【自動車技術安全部 管理課】

//////// 編集部より ///
処暑・・・暑さがおさまる頃という意味で、今年は8月23日です。
厳しい夏の暑さはまだ続っていますが、朝夕は少し心地よい風が吹くようになりました。

九州北部豪雨で被災した阿蘇の親類から便りが届きました。
旅館も床上浸水しましたが、ボランティアなど様々な人に支えられ、10日後には営業を再開しました。まだまだ全面復旧に至ってはいないけれど、阿蘇は元気です！と結んであり、ホッとしました。

多くの人が阿蘇を訪れることが復興支援に繋がるそうです。
「お外で朝ご飯」の取り組みもやっていて気になっていました。夏休みに訪ねて

みようと思っています。

いつも九州運輸局メールマガジンをご覧いただき誠にありがとうございます。

編集部では、運輸と観光行政に関する取組や話題、イベントの案内、地域の情報等、本メールマガジンへの掲載記事を広く募集しています。お気軽にご投稿ください。

//

■九州運輸局メールマガジンのバックナンバー閲覧はこちらから

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/top.html

■九州運輸局メールマガジン編集部（九州運輸局総務部内）

mail：mm-kyushu@qst.mlit.go.jp

Tel：092-472-2312 Fax：092-471-7192